

Press Release



大同工業高校(山田芳写真資料) 昭和34年(1959)

伊勢湾台風60年事業

特別展

治水・震災・伊勢湾台風

Historical Disasters in Nobi Plain

2019年 9月21日(土) ~ 11月4日(月・休)

名古屋市博物館

NAGOYA CITY MUSEUM

〒467-0806 名古屋市瑞穂区瑞穂通1-27-1

TEL 052-853-2655 FAX 052-853-3636

WEB <http://www.museum.city.nagoya.jp/>

企画概要

東日本大震災以降、災害に対する社会的関心が大きく高まる中で、今年は**伊勢湾台風から60年**の節目を迎えます。私たちの住む濃尾平野では、歴史上どのような災害が起きてきたのでしょうか。そして人々はどのように災害と向き合ってきたのでしょうか。

災害は単なる自然現象ではなく、被害を受ける人々がいて初めて災害となります。そのため、災害の発生した地域や時代の特徴が被害や復興の様子に大きく影響します。そこで本展では、災害に関わる社会の動き、特に「**開発と環境**」「**被災者支援の担い手**」という2つの要素を軸に、濃尾平野を襲った歴史災害に迫ります。

展示構成

- 序 章 災害を記録する
- 第1章 濃尾平野・伊勢湾岸の治水
- 第2章 転換期の大震災
- 第3章 伊勢湾台風—記憶から歴史へ—
- 終 章 伊勢湾台風の記憶が眠る街

展覧会情報

タイトル 伊勢湾台風60年事業「特別展 治水・震災・伊勢湾台風」
Historical Disasters in Nobi Plain

会 期 2019年9月21日(土)～11月4日(月・休)

休 館 日 毎週月曜日・第4火曜日(祝休日の場合は開館、翌平日休館)
会期中の休館日9/24、30、10/7、15、21、28

開館時間 9:30～17:00(入場は16:30まで)

観 覧 料 一般300(400)円 高大生無料 中学生以下無料 市内在住の65歳以上無料

*無料観覧には学生証・敬老手帳等の提示が必要。

*カッコ内は常設展との共通料金。高大生・市内在住の65歳以上の方が常設展に入場される際は、別途料金が必要。

*名古屋市交通局のドニチエコきっぷまたは一日乗車券を利用して来館された方は50円割引。

*障害のある方は手帳、難病患者の方は受給者証の提示により本人と介護者2人まで料金無料。

*30名以上の団体は割引があります。お問い合わせください。

*各種割引を重複してご利用いただくことはできません。

9月26日 伊勢湾台風
10月28日 濃尾地震
11月4日 安政東海地震

主催:名古屋市博物館 / 協賛:矢作建設工業株式会社

尾張・美濃地方における災害の歴史を、江戸時代の治水、濃尾震災など近代の地震、そして伊勢湾台風と、およそ300年にわたって一挙に紹介します。そこには、本展で初めて紹介する最新の研究成果も多数含まれます。

安永8年(1779) 安永大洪水

尾張名古屋の名物藩士、水害の被災地を往く



高力猿猴庵『安永洪水図』 安永8年(1779) 名古屋市博物館蔵

豊かで鋭い観察眼を持った尾張藩士高力猿猴庵の記録。

安政元年(1854) 安政東海地震

幕末の尾張を襲った知られざる「伊勢湾台風」



『青窓紀聞』より安政二年高潮被害図 安政2年(1855) 名古屋市蓬左文庫蔵

安政東海地震後、伊勢湾岸の干拓地域では大幅な地盤沈下が自然環境を大きく変え、以降も高潮被害などの後遺症を残しました。

本展で紹介される主な災害

明治24年(1891) 濃尾震災

明治24年(1891)に起きた濃尾震災は、近代日本が初めて直面した大地震です。

江戸時代以来の錦絵や、新たに登場した写真というメディアが被災地の様子を発信しました。



明治廿四年十月廿八日大地震図 明治24年(1891) 名古屋市博物館蔵

近代日本の直面した最初の大地震

昭和34年(1959) 伊勢湾台風

博物館では、伊勢湾台風に関連する資料を市民に呼びかけ、収集してきました。これからも大災害の経験を伝えていくため、伊勢湾台風の「生」の資料をご紹介します。

白水小作文集
「台風記」を
資料集として
刊行!

最も被害の大きかった
白水区の「まちの記憶」



台風記 昭和34~35年(1959~60) 名古屋市博物館蔵

被災地を覆う青空に何を思う



伊勢湾台風被害写真 古川萬吉撮影 名南中学校グラウンド 昭和34年(1959) 名古屋市博物館蔵

濃尾平野の災害300年史

災害の克服を目指す

人々のエネルギー

災害は、それを体験し、目撃した人々に、物質的だけでなく精神的にも大きな衝撃を与え、ひとりひとりを様々な行動へと駆り立てます。災害が幾度も襲来するような「災害時代」には、そうした人々のエネルギーが大きくなるとなって、地域の歴史を動かしていきます。本展では、災害に直面した人々のエネルギーの発露にも注目します。

幅5m以上! 謎の巨大絵図から尾張藩の水害対策を探る



玉野川筋上川内禿地絵図面 文化10年(1813) 個人蔵

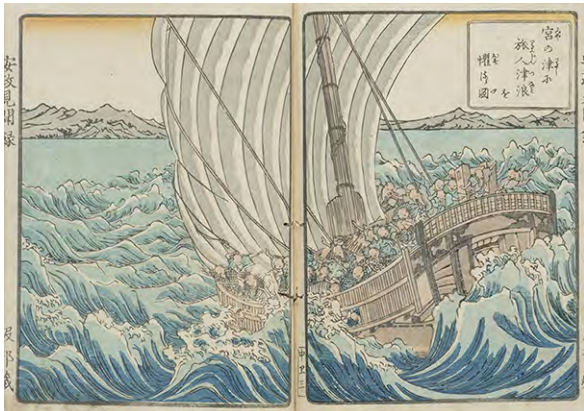
災害時代に目覚めた地域住民のエネルギー



御冥加自普請之図 天明4年(1784) 名古屋市博物館蔵

人々に豊かなくらしをもたらす木曾三川や庄内川。しかし、江戸時代中期では上流のはげ山化や流域の新田開発によって環境が大きく変化し、水害対策が重要な政治的課題となりました。

南海トラフ地震発生! その時尾張藩はどう動いた?



「安政見聞録」より「宮の津に旅人津浪を懼る図」 安政3年(1856) 名古屋市蓬左文庫蔵

安政元年(1854)の安政東海地震では、民政を担当する代官所だけでなく、藩主の側近たちも被災地に赴いて救済活動に奮闘。

「写真師」たちがとらえた被災地の「真景」



「濃尾震災写真帖」より被災した名古屋城 明治24年(1891) 名古屋市博物館蔵

明治24年(1891)濃尾震災では、広く社会に基盤を置く災害義捐金という新しい被災地支援の形が定着していきました。

大災害の発生、 その時会社は何をしてくれる?



昭和34年(1959)の伊勢湾台風当時は高度経済成長期にあたります。大企業が現在にまで続く終身雇用によって社員との結び付きを強めていく一方で、昔ながらの職人・商店もまだ数多く存在していました。社会が大きく変容する中で、多様な被災者たちの生活再建はどのように進められたのかにも注目します。

大同製鋼被災従業員への連絡 昭和34年(1959) 大同特殊鋼株式会社蔵

台風ニュースを聞いたラジオ。 濁流に呑まれたその後は?



トランジスタラジオ 昭和後期 名古屋市博物館蔵

シンポジウム 9月21日(土) 「災害と文化財・地域文化」

陸前高田市立博物館で文化財レスキューに従事してきた学芸員による、東日本大震災の被害から博物館再建に向けての取り組みをご紹介します。併せて、東海地方の各県博物館協会などの担当者から今進めている災害対策の取り組みを報告。文化財、ひいては地域文化をいかにして災害から守るのかを考えます。

時 間 13:30~15:00(開場は13:00)

会 場 名古屋市博物館地下1階 講堂 聴講無料

共 催 愛知県博物館協会

講 師 陸前高田市立博物館学芸員・名古屋市博物館学芸員・愛知県博物館協会担当者等

定 員 220名

※当日9:30より聴講整理券を会場入口で先着順に配布します(1観覧券につき1枚のみ)。

※講演会で、手話通訳・要約筆記などによるサポートをご希望の方は、当日の2週間前までに博物館までご相談下さい。

シンポジウム 9月28日(土) 「災害史を学ぶ」

伊勢湾台風をはじめとする災害関係資料を所蔵・活用に取り組んできた名古屋市鶴舞中央図書館・南図書館や名古屋市博物館の司書・学芸員が、災害教育にいかにして図書館・博物館が貢献できるかを議論します。

時 間 13:30~15:00(開場は13:00)

会 場 名古屋市博物館1階 展示説明室 無料

講 師 名古屋市鶴舞中央図書館司書・名古屋市博物館学芸員

定 員 100名

防災ワークショップ

10月14日(月・祝)

非常時に役立つ！
「紙食器」作り&牛乳パックDE
ホイッスル！

時 間 10:00~15:00 随時受付・実施

会 場 名古屋市博物館1階 展示説明室 無料

協 力 名古屋市港防災センター

連続講座

9月23日(月・祝) 伊勢湾台風

10月19日(土) 江戸時代の治水

11月 3日(日) 転換期の震災

時 間 13:30~14:30(開場は13:00)

会 場 名古屋市博物館 展示説明室 無料

講 師 当館学芸員 鈴木雅

定 員 各回100名

災害を伝える

災害に関する様々な機関・施設の取り組みをブース形式で紹介します。

連携予定機関：陸前高田市立博物館、名古屋市鶴舞中央図書館・南図書館、名古屋市港防災センター、港まちづくり協議会、名古屋大学減災連携センター、名古屋大学附属図書館

広報用 作品画像・読者プレゼントチケット 申請書

- 作品画像の使用は、「特別展 治水・震災・伊勢湾台風」を紹介する場合に限りです。展覧会終了後の利用、または二次使用はお断りします。
- 広報用画像を紹介する場合には、展覧会名・会期・会場・作品名・所蔵者名を必ず記載して下さい。
- 広報用画像は全図で使用して下さい。トリミング、変形、部分使用、文字のせを行う場合は、事前に申請の上、承認が必要となります。
- 掲載記事につきましては、基本情報確認のため、校正刷り、原稿の段階で下記のお問い合わせ先までお送り下さい。

貴社についてお知らせ下さい

貴社名 _____ 媒体名 _____ web 紙

ご住所 〒 _____

ご担当者名 _____ ご所属部署 _____

TEL _____ FAX _____

E-mail _____

ご掲載・放映の予定日が決まっている場合はお知らせ下さい。 _____ 月 _____ 日

[個人情報の取扱いについて]

ご記入いただきました個人情報は、名古屋市博物館より今後の展覧会に関する情報発信や連絡などが必要な場合にのみ使用します。許可なく第三者に個人情報を提示することはありません。

作品画像を1点以上掲載し、本展をご紹介いただける場合、 希望する (_____ 組 _____ 名分) 読者向けチケット (5組10名分まで) を提供します。 希望しない

※チケットは、原則として掲載紙・誌 (webの場合は、掲載アドレスを知らせるメール) が広報事務局に到着し、確認させていただいてから発送します。

希望される画像の番号を○で囲って下さい。

1



大同工業高校(山田芳写真真資料)
昭和34年(1959)
※所蔵表記は不要です。

2



台風記
昭和34-35年(1959-60)
名古屋市博物館蔵

3



台風ニュースを聞いたラジオ
昭和後期
名古屋市博物館蔵

4



(展覧会メインビジュアル)
※クレジットの表記は不要です。

5



高力猿猴庵『安永洪水図』
安永8年(1779)
名古屋市博物館蔵

6



玉野川筋上川内禿地絵図面(部分)
文化10年(1813)
個人蔵

7



明治廿四年十月廿八日大地震図
明治24年(1891)
名古屋市博物館蔵

8



『濃尾震災写真帖』より被災した名古屋城
明治24年(1891)
名古屋市博物館蔵

お問い合わせ先 名古屋市博物館学芸課 特別展 治水・震災・伊勢湾台風 広報担当 (小林、白井)

〒467-0806 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂通 1-27-1 TEL.052-853-2655 FAX.052-853-8400

E-mail ncm-gaku@juno.ocn.ne.jp HP URL <http://www.museum.city.nagoya.jp/>